

農林水産委員会 県内所管事務調査の概要

【平成29年5月8日（月）】

◆調査箇所：中部振興局、大分家畜保健衛生所

＜概要＞

中部振興局（管轄：大分市、臼杵市、津久見市、由布市）及び大分家畜保健衛生所から、組織及び管内の概要、担い手確保の取組、集落営農の推進、有害鳥獣対策などの主要事業の概要・進捗状況等について調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・新規就農希望者への適切な情報提供について
- ・鳥獣被害の概要、対策について
- ・畜舎の構造について

◆調査箇所：有限会社豊後大分有機茶生産組合（臼杵市野津町西畑）

＜概要＞

平成18年に伊藤園と連携し生産拡大を図り、施設の有効利用、労力分散を目的に大麦若葉の栽培加工にも取り組んでいる。

また、平成28年度活力あふれる園芸産地整備事業を活用して加工施設を整備し、ドリンク茶の原料荒茶加工の生産効率・コスト削減に取り組んでおり、その状況について調査した。



＜主な質疑等＞

- ・製品ができるまでの一連の工程について
- ・人員の配置状況について
- ・工場施設建設に伴う収支の見通しについて

◆調査箇所：農業水利施設保全合理化事業 石場ダム（臼杵市野津町東谷）

＜概要＞

県営かんがい排水事業として築造した畑地かんがい用ダムであり、この用水により、野津町から三重町西部にかけて畑作振興団地が形成されている。

しかし、築造から40年が経過し、老朽化が見受けられるため、平成28年度から洪水吐減勢池の改修を行っている。



＜主な質疑等＞

- ・ダムの利用状況、施設の管理状況について
- ・パイプライン破損事故の現状、更新計画について

◆調査箇所：新規就農事例・活力あふれる園芸産地整備事業（大分市滝尾）

<概要>

パート経験からイチゴ栽培に意欲を持ち、大分県農業農村振興公社事業の就農準備研修を受講するとともに、就農資金を借り入れて栽培ハウスと育苗施設を整備している。

平成28年3月に認定新規就農者に認定され、同年8月から就農。29年3月には出荷実績もあげており、その状況について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・出荷状況について
- ・新規就農者に対する支援策について
- ・規模拡大計画について

【平成29年5月9日（火）】

◆調査箇所：有限会社釘宮牧場（大分市丹生）

<概要>

本県でも有数の大規模酪農経営体であり、搾乳頭数400頭に向けた規模拡大に取り組んでいる。

平成20年から、エコフィード（食品加工残さ等を利用した飼料）を活用した低コスト経営を他に先駆けて実践している。

さらに、残さと他の飼料を混ぜ合わせて調製する混合飼料の製造にも取り組んでおり、その概要等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・粗飼料の調達先、飼料の調整について
- ・エコフィードの品質管理、牛の健康管理について
- ・研修生の受け入れ状況について

◆調査箇所：おおいた林業アカデミー（由布市湯布院町川北）

<概要>

林業分野への就業を目指す43歳未満の未就業者を対象に、森林・林業や木材産業に関する基礎的知識、林業作業に使用する機械の構造や操作方法などの技術を習得するための研修を行っている。

アカデミーは28年度から開始しており、28年度（第1期生）は10人が修了、平成29年度（第2期生）は9人が受講中である。その取組の概要について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・研修生の対象範囲、条件について
- ・女性研修生の実績について
- ・若者に対する林業の魅力発信、新規就業者の確保について

◆調査箇所：株式会社むかし野菜の邑グループ 佐藤自然農園（大分市野田）

<概要>

堆肥に草木肥料等を使う循環農法に共感した農家4人で会社を設立し、米、小麦、野菜を栽培している。

収穫した農産物は個人や法人などの登録会員に限定して販売している。また、研修生の受け入れや栽培指導などにも取り組んでおり、その状況について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・堆肥作りに使用する牛糞の入手先について
- ・農地の所有状況について
- ・消費者とのコミュニケーションの必要性について

【平成29年5月18日（木）】

◆調査箇所：西南水産株式会社（佐伯市上浦）

<概要>

人工種苗の専用生け簀を計画的に整備し、完全養殖マグロの安定生産と規模拡大を図っている。

平成28年度にブロック加工専用施設を新設し、自社原料と産地加工の強みを生かし、クロマグロの生鮮状態での供給体制を整えており、その事業概要について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ブロック加工の作業工程について
- ・産地別のマグロの成長速度、味質、特色について
- ・今後の養殖場の拡大計画について

◆調査箇所：大分県農業協同組合南部事業部佐伯苺生産部会（佐伯市木立）

<概要>

平成28年度から「さがほのか」の100パーセント高設栽培に取り組んでいる。

育苗、栽培技術のレベルが高く、27年産全農実績で県内2位と単収が高い。また、佐伯市が設置したファーマーズスクールを活用して担い手の確保・育成に取り組んでおり、事業の概要とともに新規就農者のハウスを調査した。



<主な質疑等>

- ・高レベルの育苗・栽培技術の維持・向上策について
- ・ファーマーズスクールを活用した後継者の確保について
- ・資材の購入方法について

◆調査箇所：南部振興局、水産研究部

<概要>

南部振興局（管轄：佐伯市）及び農林水産研究指導センター水産研究部から、組織及び管内の概要や水産業の振興、林業・農業生産体制の確立など重点課題、東九州自動車道・ユネスコエコパークを活かした観光地づくり、南海トラフ地震対応の強化、水産に係る調査研究課題の主要事業等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・新規就農者（地元出身者）の確保、教育現場に対する農業の魅力発信について
- ・燃料費の高止まり、漁獲量減少等水産業に対する支援策について
- ・南海トラフ地震対策について

【平成29年5月19日（金）】

◆調査箇所：株式会社大分県畜産公社（豊後大野市犬飼町田原）

<概要>

平成28年8月から新施設の稼働・操業を開始している。当施設は、県内唯一の食肉処理施設であり、高度な衛生水準と国際化に対応するため、食品衛生管理の国際基準であるHACCP方式を導入し、安全で衛生的な食品管理を徹底している。

新施設の設備や衛生水準の概要、実際の牛・豚処理の流れ等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・競りの実施による牛の価格向上について
- ・県内における豊後牛消費拡大対策の推進について

◆調査箇所：お花屋さんぶんご穴井生産組合（豊後大野市大野町杉園）

<概要>

輪ギク周年経営のモデルである「お花屋さんぶんご清川」で研修を積んだ県外出身の3人の若者が「のれん分けシステム」により、平成26年に設立した組合である。

平成24年度から2か年で3ヘクタールの鉄骨ハウスを整備し、輪ギクやSPギクの周年栽培に取り組んでおり、その概要や施設・設備の状況について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・労働力の安定確保について
- ・周年出荷体制の取組、今後の規模拡大計画について

◆調査箇所：豊肥振興局、農林水産研究指導センター、農業大学校、豊後大野家畜保健衛生所、県央飛行場管理事務所

<概要>

<概要>

豊肥振興局（管轄：竹田市、豊後大野市）及び農林水産研究指導センター、農業大学校などから、組織及び管内の概要、水田農業の構造改革、担い手の確保・育成、肉用牛の産地づくりなど主要業務の概要とその進捗状況、各種試験研究の成果・普及状況等について調査を行うとともに、第11回全国和牛能力共進会宮城大会を見据えて造成された種雄牛を視察した。



<主な質疑等>

- ・ 県央飛行場のより有効な活用方法について
- ・ 獣医師の確保、技術の継承について
- ・ 試験研究機関の研究成果の現地活用について

◆調査箇所：林業専用道整備事業 神堤1号線（竹田市直入町神堤）

<概要>

木材の素材生産量拡大には生産コストの縮減が不可欠であり、豊肥振興局管内では林業専用道の路網整備を10か年計画で推進している。

当地区は平成27年度から開始しており、工事の概要について調査を行うとともに、高性能林業機械「プロセッサ」による枝払い、玉切りを視察した。



<主な質疑等>

- ・ 林業の機械化による新規就業者（若者）の確保について
- ・ 機械導入による労力の削減状況について
- ・ 専用道整備の効果について

【平成29年5月24日（水）】

◆調査箇所：東部振興局、果樹グループ

<概要>

東部振興局（管轄：別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町）及び農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループから、組織及び管内の概要や農地中間管理事業などの主要事業、温州ミカンチームの「あすみ」の施設栽培技術の確立など重点研究課題の概要・進捗状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 今後のGAP認証の取組について
- ・ 市町村連携による農産物の共同出荷と東部振興局の管轄の関係について
- ・ 農業を志す学生への支援、試験研究成果の現地活用について

◆調査箇所：国東市農業団地（国東市国東町安国寺）

<概要>

国東市では、平成26年に取得した国の常緑果樹農業研修所跡地を、市の農業団地として参入企業を募集。現在、キュウセツAQUA（株）、（株）九設ふる里恵ファーム（株）及び日出電気エコファーム国東が進出している。

当団地は今後の新たな国東農業の拠点、観光農園として期待されており、各社の取組状況を調査するとともに、水耕リーフレタス、ミニトマトのハウスにおける栽培状況や選果作業等を視察した。



<主な質疑等>

- ・レタスの栽培方法、出荷体制について
- ・ミニトマト栽培における従業員の確保対策について
- ・オリーブを使った製品の生産・販売状況について

◆調査箇所：経営体育成基盤整備事業 池ノ内地区（国東市武蔵町池ノ内）

<概要>

県内に先駆けてほ場整備に着手。水稻・麦・大豆を中心に農地の高度利用が図られてきたが、農業機械の高度化、担い手の高齢化により、ほ場の非効率化、用水路の管理に要する負担増、排水不良による高度利用農作物の品質・収量低下が課題となり、平成27年度から用水路のパイプライン化、暗渠排水を実施しており、その進捗状況を調査した。



<主な質疑等>

- ・池ノ内地区の生産品目、作付け面積について
- ・ため池の安全管理について

◆調査箇所：ヤンマー株式会社マリンファーム（国東市武蔵町糸原）

<概要>

国産の優良系統から人口採苗した種苗を使用し、海面や干潟を利用して高品質の生食に特化したカキを生産している。また、カキの安全性を高めるため、浄化技術に関する開発も行っている。

「くにさきOYSTER（オイスター）」として国東市の新しい地域特産ブランドとして期待されており、事業の概要を調査するとともにカキ養殖施設を視察した。



<主な質疑等>

- ・「くにさきオイスター」ブランド化の取組について
- ・担い手（若者）の確保について
- ・カキのサイズと効率的な養殖期間について

【平成29年5月25日（木）】

◆調査箇所：中山リサイクル産業株式会社グリーンパーク杵築工場（杵築市山香町久木野尾）

<概要>

杵築市山香町を中心に、森林組合・地域素材生産者等から有価で木材の未利用材を回収し、チップ加工を行った後、燃料用チップとして販売している。

平成28年より、豊後大野市のバイオマス発電所への本格出荷を開始し今後の利用拡大が期待されており、その概要を調査するとともに、工場内の機械施設を視察した。



<主な質疑等>

- ・乾燥の工程、出荷時の乾燥具合について
- ・バイオマス発電所へのチップの販売価格について
- ・他県における生産活動について

◆調査箇所：農事組合法人こめ・こめ・くらぶ（杵築市山香町野原）

<概要>

福林集落の有志5人で設立した集落営農法人。10年目の平成27年には、作業カバー面積が86ヘクタールと当初の4倍強にまで規模を拡大してる。

また、平成22年に策定した5年間の経営発展チャレンジ計画により後継者育成、経営面積拡大による売り上げ増を目指した結果、若者2人の常時雇用が可能となった。

集落営農の優良事例であり、その取組の概要について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・WCS生産の仕組みについて
- ・従業員の雇用・労働体制について
- ・後継者の育成・確保、予算の確保（機械の更新）等、課題について

◆調査箇所：花きグループ（別府市鶴見）

<概要>

農林水産研究指導センター農業研究部花きグループから、組織の概要や研究・普及方針、アルストロメリアに対する大麦焼酎粕活用技術の確立、ホオズキ・トルコギキョウ等の種苗生産技術の確立など、これまでの試験研究の内容・成果の普及状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・オリジナル品種の育成による収益の向上について
- ・植物園の入場者数の推移について
- ・地熱を生かした特色づくりの検討について

◆調査箇所：治山工事 寒原地区（別府市南立石）

<概要>

平成24年の九州北部豪雨により溪流内上部で土石流が発生し、下流域の別府ロープウェイ駐車場等に多量の土砂が流出。一部は県道を横断し家屋が被災した。

27年度に復旧工事が完成したため現地調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 治山工事の事業内容について
- ・ 国（国有林）との事業分担について

【平成29年5月30日（火）】

◆調査箇所：大山町農業協同組合えのきたけ生産施設（日田市大山町都築）

<概要>

大山町の地域の基幹農作物であるえのきたけは、「マッシュルク」ブランドとして市場の地位を確立している。

平成27年度に、大山えのきの生産量増加対策として大規模集約化した生産工場を整備。年間フル操業で約1千トンの生産を予定している。町全体では、約3千トンへの規模拡大を図っており、その取組の概要を調査するとともに工場内を視察した。



<主な質疑等>

- ・ 価格低迷の原因について
- ・ 消費拡大に向けた消費者（女性）に対するアピール強化について

◆調査箇所：西部振興局、林業研究部、玖珠家畜保健衛生所

<概要>

西部振興局（管轄：日田市、九重町、玖珠町）及び農林水産研究指導センター林業研究部及び玖珠家畜保健衛生所から、組織及び管内の概要や園芸戦略品目である梨や菊の生産振興、農業への企業参入の推進など、重点研究課題の概要・進捗状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 梨の海外戦略目標値達成のための具体的な取組について
- ・ 捕獲した鳥獣の処理場計画、ジビエの普及状況について

◆調査箇所：玖珠町鳥獣被害対策協議会（玖珠町太田）

<概要>

鳥獣被害に対し、玖珠町では、集落住民に対する研修会の実施や防護柵の設置などの捕獲対策を講じており、被害総額は減少傾向にある。しかし、依然として被害総額が1千万円を上回っていることや捕獲員の高齢化・減少が課題となっている。

このため、ラビットクレー放出機導入による捕獲圧の強化に取り組んでおり、その概要を調査するとともに射撃訓練の実施状況を視察した。



<主な質疑等>

- ・ラビットクレー放出機による射撃訓練の仕組みについて
- ・捕獲技術の向上対策について
- ・猟のチーム編成について

◆調査箇所：災害関連緊急治山事業 九重町長井野地区（九重町町田）

<概要>

平成28年4月に発生した熊本地震で崩落した岩塊や崖錐性の堆積物等が、6月以降の降雨により県道飯田高原中村線へ流下したものの。

山腹工事の概要及び進捗状況について現地調査を行った。



<主な質疑等>

- ・山腹工の工法について
- ・工事の進捗状況について

【平成29年5月31日（水）】

◆調査箇所：農事組合法人農守さざれ（宇佐市佐々礼）

<概要>

高齢化による将来の担い手確保、農作業に必要な機械の購入負担軽減のため平成22年に設立。水稲、麦、大豆に加え、平成29年度からはキャベツや落花生の栽培を開始するなど規模を拡大している。

パン用小麦粉の栽培では地元企業との農商工連携を実現。集落の環境美化や水路の維持管理も取り組んでおり、集落の牽引役として地域の活性化に大いに貢献している。その取組の概要について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・学校給食に小麦を提供するための課題について
- ・冷凍パンの保存期間、納入先について
- ・法人の運営状況について

◆調査箇所：北部振興局、水田農業グループ、浅海・内水面グループ、宇佐家畜保健衛生所

<概要>

北部振興局（管轄：中津市、豊後高田市、宇佐市）及び農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループなどから、組織及び管内の概要や白ねぎ・いちご等の戦略品目の産地づくり推進など主要事業、水稻の乾田直播栽培など重点研究課題の概要・進捗状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・企業参入の状況、振興局のフォローアップ体制について
- ・豊前海におけるアサリ稚貝発生状況、資源回復の取組について

◆調査箇所：大分県北部流域林業推進協議会（中津市田尻崎）

<概要>

島根県の合板工場と締結した原木安定取引協定に基づき、中津港を活用して合板用スギ丸太の共同出荷を行っている。

協定期間は平成30年までで、現在まで約2万6千立方メートルを出荷しており、その事業内容、移出・輸出の流れについて調査するとともに、木材を保管管理している現地を調査した。



<主な質疑等>

- ・原木の主な加工製品について
- ・木材搬出口埠頭拡張の必要性について
- ・取扱い材の内訳、大きさ、処理工程、荷積み状況について

【平成29年6月7日（水）】

◆調査箇所：豊後大野市朝地町綿田地区

<概要>

平成29年5月16日に朝地町綿田地区で発生した地すべりについて、豊肥振興局長及び豊後大野土木事務所長より、地割れの現状と今後の対応策、避難者の状況、農地被害の状況とその支援策等について説明を求め、意見交換を行うとともに現地を視察した。



<主な質疑等>

- ・今後の被害想定と対応について
- ・農地の被害状況と早急な対応について
- ・避難者に対するサポート体制について